

## 令和 3 年度 【 学園研究費助成金 &lt; A &gt; 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ 伊藤信博  
氏名 伊藤信博

研究期間 令和 3 年度

研究課題名 名古屋造形大学所蔵石井染織所染織型紙研究と型紙限定によるジャポニスム発展研究や染織型紙展示会企画

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	伊藤信博	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者	村上心	生活科学研究科	教授
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

明治 24 年に創業された石井染工所が名古屋造形大学に寄贈した染織型紙 23,000 強の分類・分析と研究代表者が過去に調査した西欧美術館等所蔵の型紙との比較研究を村上研究室所属の大学院生等と行う。そして、この比較研究から、西欧の型紙収集が盛んに行われた日露戦争前後の西欧所蔵型紙との共通項を探り、人類共通の歴史的文化遺産の保存や研究の発展を問う。また、椋山歴史文化館での展示会を行い、一般に周知する。そして型紙文化の重要性、文化性を認識し、西欧で認知される美術品としての染織型紙としての価値を評価し、文化として形成される価値観を新に誕生させる研究を行うことを目標とする。なお、この研究は名古屋造形大学の協力を得て実行する。

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

名古屋造形大学の型紙を以下の方法で研究する。①石井コレクション型紙の分類と保存研究②展示会③の実施（歴史文化館、「日本の美 絵巻・絵本と染織型紙」③西欧の美術館に所蔵される型紙との比較研究（右図は明治中期に日本で製作されたアールデコ調の型紙でパリ装飾美術館蔵）④慶應大学文学研究科石川透の遠隔講演実施（紙に関わる発表）⑤絵写本や版本表装に型紙のデザイン研究実施（美術館から表装写真を収集）⑥名古屋造形大所蔵染織型紙の文様分類実行：◎地文様・幾何文様、唐草文様・窠文様、植物文様、動物文様、自然・風景・器物等の文様に別けて、リストを制作。

以上から、名古屋に残る歴史的文化遺産に大きな焦点を当て、型紙を文化として形成する価値観高い美術品として認識させる研究の実行。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

学園研の助成により①「紙質・表装文様を中心とした日欧比較による写本・版本研究と国際的写本研究の基盤形成」(科学研究費基盤A)という紙質・表装文様を中心とした研究申請ができたことや、より具体的な「染色型紙文様研究からみたジャポニスムの発展と日本の文化継承」(挑戦的研究(萌芽))に申請できたことが大きい。

さらに、これらの研究の基盤となる表紙文様や端切れ文様の収集ができたこと、付属校元教員による型紙文様コレクションなどの寄贈が歴史文化館にあったこと、美術館からの表紙文様画像の寄贈などで、基本となる研究基盤が形成されたことが大きな成果であろう。

一方で、展示会の実施(200人弱の入場者)、紙質などの遠隔講演および展示会の解説ビデオなどで(研究代表者授業の一環)、本学学生に学ぶ意義や興味の対象として型紙が多分に貢献したことも大きい。また、授業の一部において(国コミ・クロスカルチャースタディーズ)、村上研究室院生が名古屋造形大学蔵型紙についての解説、研究代表者が西欧のジャポニスムの形成と型紙の関係についても発表し、教育効果を挙げた。

なお、型紙に関するジャポニスムの影響が大きいフランス・アルザス地方では、本年度3月17日～19日に「知識の伝承・伝達」をテーマに、型紙・絵写本を持つ西欧美術館や型紙を模倣して西欧の壁紙を作った学校であったストラスブール市立版画室、研究者が参加し、ストラスブール大学で、国際研究集会を開催するが、研究代表者と紙質研究者である慶應義塾大学研究者が共に招聘され(科学研究費基盤Aの分担者)、遠隔で講演会を行う。また、ストラスブール大若手研究者が「ジャポニスムとアルザス」関係の研究会を立ち上げ、2022年4月から、活動を開始し、研究代表者も研究会に参加することとなったことも成果の一つである。この研究会は日本語・英語で行われるため、本学学生にも参加を請う予定でもある(特に伊藤ゼミ生)。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①型紙	②文様	③紙質	④ジャポニスム
⑤国際関係	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

伊藤信博・村上心・藤村香穂「染色型紙の価値の再検討と西欧の染色型紙受容について」、『椋山女学園大学研究論集』第53号、2022年、全10頁

伊藤信博「日本の美・西欧の美—比較からみるジャポニスム」、『知識の伝承・伝達』、国際研究集会(ストラスブール大)、2022年3月3日(予定)

今後は来年度中に紙質・表紙文様と型紙についての研究集会(椋山大)の開催予定(慶應、実践女子大、名古屋学院大など)を予定。さらに研究集会後に論文集を(勉誠出版)刊行も予定。